

鳥取市子どもの読書活動推進委員会

おすすめ絵本リスト



は じ め に

絵本リスト作成にあたって

～読書の種まき～

この度、鳥取市子どもの読書活動推進委員会の絵本リスト作成部会が、おすすめの絵本リストを作成しました。この絵本リストは、鳥取市のブックスタート事業で絵本と一緒に0歳から2歳児向け絵本冊子本「ねえよんで」を配布していますので、3歳向けから小学校低学年向けにしています。

鳥取市の読書推進について委員会で語り合う中、危機感をもって出た課題が「子どもの育つ環境の変化により、子ども達の言葉が貧弱で、想像する力が衰えてきつつある。」ということでした。そこで、「子どもの言葉を育み、豊かな想像力の翼を広げることのできる良質の絵本と出合ってほしい。」「親御さんや先生方の愛情を読み聞かせで感じてほしい。」そんな思いで、推進計画書の限られた紙面の中、私たちの選りすぐりを年齢別に掲載しました。

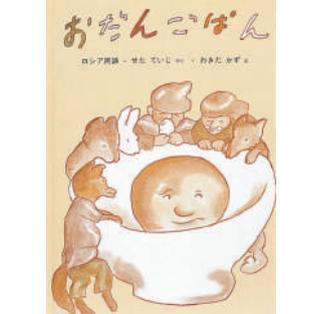
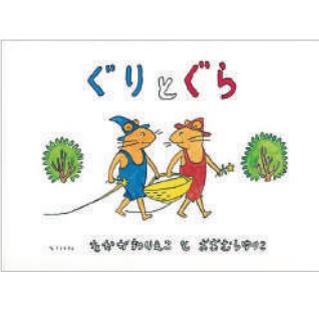
このリストを、園や学校、児童館や公民館が絵本を購入したり、手に取って読み聞かせをしたりする際の参考にしていただければと思います。なにより家庭において、絵本を取り入れた子育てが楽しいと思う親御さんが増えることを願っています。大好きな人のおひざの上やあぐらの中で、温かな肌のぬくもりを感じながら語りかけられる絵本のおはなしの世界。それは、子どもの育ちを健やかなものにするだけでなく、親子の幸せの記憶となるでしょう。リスト内にあります絵本の読み聞かせにまつわるエピソードが、そのことを証明してくれていますよ。こちらもご一読ください。

最後に、私たち委員がおすすめしたい絵本は、この絵本リスト以外にも沢山あります。是非、沢山の本との出会いがある図書館、暮らしの中の居場所としての図書館へおでかけください。そして、読書の種まきを私たちとともにしませんか？身近なところにこの絵本リストを置いて、ご活用いただければ幸いです。

鳥取市子どもの読書活動推進委員会

委員長 山田節子

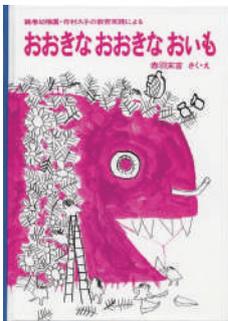
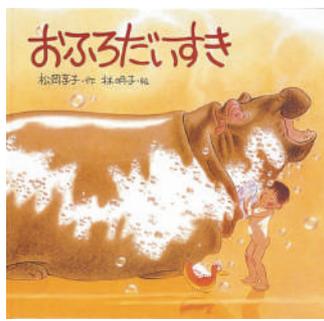
3 歳 向 け

あおくと きいろちゃん	至光社	おおきなかぶ(ロシアの昔話)	福音館書店
レオ・レオーニ 作, 藤田圭雄 訳		A.トルストイ 再話, 内田莉沙子 訳, 佐藤忠良 画	
	<p>作者のレオーニさんが二人の可愛いお孫さんに色遊びをしながらお話が始まりました。二つの色はどこへ行くのも一緒、何をして遊ぶのも一緒。とうとう一緒になって緑色になりました。遊び疲れて家に帰ることになったのにあおくとんちの家に、きいろちゃんの家にも帰れません。泣き出しました……。どうなるのでしょうか。</p>		<p>「おじいさんがかぶをうえました。あまいげんきのよいとてつもなくおおきなかぶができました。」力を入れて抜きますが抜けません。おばあさんと一緒に「うんとこしょどっこいしょ。」抜けません。おばあさんは孫を、孫は犬を呼んでも抜けません…。それからどうなったのでしょうか。ロシアの昔話、リズムカルなことばの繰り返しが心地よいですね。</p>
おだんごばん (ロシアの昔話)	福音館書店	かばくん	福音館書店
せたていじ 訳, わきたかず 画		岸田衿子 さく, 中谷千代子 え	
	<p>おじいさんがおいしいパンを食べたいとおばあさんに頼みました。おばあさんは、最後の粉を集めてパンを作りました。おいしそうなパンができ窓辺に置かれました。気持ちよくなったおだんごパンは転がりはじめ家の外に転がっていきました。おいしい匂いのするおだんごパンはうさぎやくまさんに会いますが、愉快的歌をうたってのがれました。ところが…。楽しんで読んでください。</p>		<p>動物園に朝が来ました。「一番早起きはだーれー。一番ねぼすけはだーれー」と作者の岸田衿子さんはかばの一日をリズムカルな文で始めます。男の子が子亀をつれてやってきた。「かばよりちいさいかばのこー かばのこよりちいさいかめのこー かめよりちいさいものなんだ？」やわらかい中間色を使った絵で描かれていてほのぼのとした絵本ですね。</p>
ぐりとぐら	福音館書店	ぐるんぱのようちえん	福音館書店
なかがわりえこ さく, おおむらゆりこ え		西内ミナミ さく, 堀内誠一 え	
	<p>のねずみのぐりとぐら森に食べ物を探しに出かけ、森で大きなまごを見つけました。お料理することと食べることの大好き二人は野原でお料理することになりました。何ができあがるのでしょうか。最後まで読んでください。なんか…。いい匂いがしてきました。</p>		<p>いつもめそめそ、そして、何もしないゾウのぐるんぱは、みんなが心配してきれいに体を洗い町に働きにでかけることになりました。はじめて作ったのはビスケット。大きいのを作って叱られ、つぎの靴屋もピアノも超特大すぎて失敗。しょんぼりしょんぼり…。でも子どもがたくさんのお母さんに出会い子どもたちと遊ぶことによって嬉しくなったぐるんぱ。みんなも楽しく遊んでくれるぐるんぱを見つけてください。</p>
三びきのやぎのがらがらどん (ノルウェーの昔話)	福音館書店	しんせつなともだち	福音館書店
マーシャ・ブラウン え, せたていじ やく		方軼羣 作, 君島久子 訳, 村山知義 画	
	<p>名前はどれも「がらがらどん」という三匹のやぎがいました。ちいさいやぎ、中くらいのやぎ、大きいやぎがなかよく、草のたくさんある山にでかけることになりました。が、途中の谷川の橋の下に恐ろしいトロールがいます…。やぎ達は草場に行けるのでしょうか…。</p>		<p>雪のたくさん降るある日、のうさぎは食べ物が無くなったので雪の中を探しに行くことにしました。かぶが、ふたつもおちていました。ひとつだけ食べてひとつをロバさんにもって行ってあげました。ロバさんは、見つけたさつまいもを食べてのでこのかぶをやぎさんへ。困っているお友達に、つぎからつぎへとみんなの親切のかぶが回っていきました。ともだちおもしろい動物さん達の心あたたまる絵本です。</p>

3 歳 向 け

ちいさなねこ	福音館書店	ティッチ	福音館書店
石井桃子 さく, 横内襄 え		パット・ハッチンス さく/え, いしいももこ やく	
	ちいさなねこが家を出て出会う危険の数々。こねこがさまざまな危険を乗り切る姿に、子ども達は自分の姿重ね合わせ、ハラハラしたり、ホッとしたり・・・おかあさんねこに助けられ、最後は甘える姿も子ども達と一緒にですね。親子でねこの気持ちになって楽しめる絵本です。		ちいさな男の子のティッチが持っている物は、小さくて一見、役に立たない物のようですが・・・小さくても大きな力を生み出す物は、こどもの成長する姿を映し出し、最後のティッチの笑顔に、自信やほこらしさを感じられます。こどもの今を大切にしながら心を育てる絵本です。
てぶくろ (ウクライナ民話)	福音館書店	はらぺこあおむし	偕成社
エウゲーニ・M・ラチョフ え, うちだりさこ やく		エリック=カール さく, もりひさし やく	
	森の中で、おじいさんの落とした手袋に次々と動物たちが入っていきます。誰でも入れる手袋はぎゅうぎゅう詰めではちきれそう。手袋の中は、大きさも個性も様々な動物でいっぱいです。動物たちが手袋に入る時のやりとりが楽しい、ほかほかの気持ちになれるおはなしです。		小さなたまごからあおむしがうまれました。おなかがぺっこぺこのあおむしは、食べ物を見つけてどんどんどんどん食べてやがては・・・あおむしが食べる様子が色鮮やかな絵と楽しい仕掛けで表現され、ラストにはこころ弾む驚きが待っています。成長の不思議さや喜びが詰まった仕掛け絵本です。
まりーちゃんとひつじ	岩波書店	もりのなか	福音館書店
フランソワーズ 文/絵, 与田準一 訳		マリー・ホール・エッツ ふん/え, まさきりこ やく	
	まりーちゃんと、友達のぼたぼんとのやりとりが繰り返されます。おんなのこのまりーちゃんとひつじのぼたぼん。考え方や好きな物は、ちがってもずっと一緒。お話の中では、どんどん増えるひつじを数える楽しさも盛り込まれています。仲良しの友達のはのぼのとしたおはなしです。		もりへ、さんぽに出たぼくにいろいろな動物がついてくると、いつのまにか行列ができて・・・動物たちは、どこか人間を思い出す姿で、自由にさんぽを楽しみます。こどもの自由な空想と現実のはざまのような不思議さを感じられます。ぼくと一緒にもりのなかのさんぽを楽しんでみてくださいね。
わにわにのおふろ	福音館書店	<div style="border: 2px solid pink; border-radius: 50%; padding: 20px; background-color: #fce4ec;"> <h2 style="margin: 0;">私たちからのメッセージ</h2> </div>	
小風さち ふん, 山口マオ え			
	おふろが大好きなわにわに。わにわにが、おふろを楽しむ様子がリズムカルに表現され、動きを表す音や、なんともいえないわにわにの表情が、笑いを誘います。自由で、気ままなわにわには、見ている子ども達の心もびのびとさせてくれます。	<p>自分を取り巻く周りの世界への興味関心が、ぐんぐんとひろがり、イメージを広げて遊ぶことが楽しくなってきた3歳のこども達。</p> <p>絵本のページをめくると、おはなしの世界に<u>うつと引き込まれていきます。</u></p> <p>いつのまにか、おはなしの中に出てくる動物やこどもの気持ちになってときどき、わくわく！イメージの世界がどんどん広がります。繰り返しのことばを一緒に口ずさみながら楽しく読める絵本がいっぱい。心がホッと読む間かぜのひとつときには、「もう一回よんで！」の声と笑顔がこぼれます。</p>	

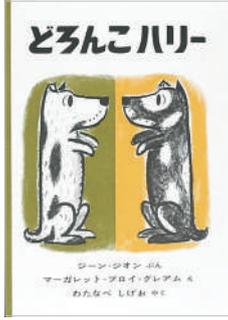
4・5歳向け

いたずらこねこ	福音館書店	おおかみと七ひきのこやぎ (グリム童話)	福音館書店
バーナディン・クック ぶん, レイ・シャーリップ え, まさきりこ 訳		グリム [原作], フェリクス・ホフマン え, せたていじ やく	
	こねこがはじめてかめをみました。この生き物は何者か。ポンとたたいてみると首が消えてなくなり、勇気を出してもう一度たたいてみると今度は足がなくなり大仰天。好奇心いっぱいのこねこの姿はまるで子ども達の日常のようで、きっと子ども達はこねこの気持ちに共感し夢中になることでしょう。		おおかみを家に入れられないよう注意しなさい。おかあさんやぎはこやぎたちにそうやって森に食べ物を探しにでかけます。こやぎたちは、おおかみの「しわがれ声」や「黒い足」を見抜いて、おおかみを追い払います。しかしおおかみは再びこやぎたちの家にやってきて……。語り継ぎたいグリム童話のひとつです。
おおきなおきなおいも	福音館書店	おふろだいすき	福音館書店
赤羽末吉 さく／え		松岡享子 作, 林明子 絵	
	楽しみにしていたおもほり遠足が、雨が降り延期になってしまいました。残念がる子どもたちは大きな紙においもを描きはじめます。紙をつなげてつなげて、おいもの絵はどんどん大きくなっていく……。大きなおいもをめぐる子どもたちの空想がつまった絵本童話です。		ぼくが大好きなおふろにあひるのブッカをつれて入ると、おふろの中から、ぼかっ、ざあっ。おおきなかめがういてきて……。個性豊かな生き物が次々と登場して、お風呂の中がどんどんぎやかになっていきます。読んでいる子ども達も思わずお風呂に入りたくなってしまふ絵本です。
かいじゅうたちのいるところ	富山房	からすのパンやさん	偕成社
モーリス・ゼンダック さく, じんぐうてるお やく		かこさとし 作／絵	
	マックスはおおかみのぬいぐるみを着ていたずら放題。怒ったお母さんに寝室に放り込まれ、そこから、かいじゅうたちのいるところへ長い旅が始まります。短い文章と不思議な魅力をもった挿し絵で子どもの好奇心や冒険心と共に、最終的には、親子の愛情も伝わってくる絵本です。		からすのパンやさんに4羽の赤ちゃんカラスが生まれました。子育てで大忙しのパン屋さん、子ども達のおやつは焦げパンや生焼けパン。そのパンが友だちの間で人気になり……。ページいっぱいに出てくる楽しいパンたち、一羽一羽表情の違うカラスたちに、子ども達と一緒に盛り上がること間違いなしです。
くまのコールテンくん	偕成社	げんきなマドレーヌ	福音館書店
ドン=フリーマン さく, まつおかきょうこ やく		ルドウィッヒ・ベームルマンス 作／画, 瀬田貞二 訳	
	コールテンくんはデパートのおもちゃ売り場で、誰かが買ってくれるのを待っています。服のボタンを探しに夜のデパートの中を大冒険する場面では、コールテンくんと一緒にハラハラドキドキすることでしょう。「ともだち」というやさしいあたたかい気持ちも溢れてくるお話です。		パリの寄宿学校に12人の女の子が暮らしていました。いつも2列に並んで、パンを食べ、歯をみがき、ベッドに入ります。中でいちばんおちびさんで、いちばん元気なのがマドレーヌ。ところが、ある晩、わーわー泣き出し……。パリの街並みの中繰り広げられるかわいなおはなしです。

4・5歳向け

こぎつねキッコ	童心社	こすずめのぼうけん	福音館書店
松野正子 文，梶山俊夫 絵		ルース・エインズワース 作，石井桃子 訳，堀内誠一 画	
	<p>山の幼稚園の裏山に住んでいるこぎつねのキッコ。母さんと二人でこっそり幼稚園をのぞくのが大好き。夏休み、子ども達がいない幼稚園で、砂場やブランコでひとり遊ぶキッコ。好奇心旺盛なキッコの様子やしぐさは、子どもを山の幼稚園へ誘います。</p> <p>キッコの愛らしさを伝えている絵もほのぼの。</p>		<p>つばさを動かすことができるようになったこすずめが、飛ぶ練習を始めるところからお話が動き出します。嬉しくて飛び続けるこすずめが、休む場所を求めて次々と鳥の巣をたずねます。が、鳴き声が違うために入れてもらえません。日も暮れて疲れきったこすずめの前に…。</p> <p>子どもは、こすずめの心細さと安堵感を味わうことでしょう。</p>
こんとあき	福音館書店	三びきのこぶた (イギリスの昔話)	福音館書店
林明子 さく		瀬田貞二 やく，山田三郎 え	
	<p>あきのおもい役としてやってきたキツネのぬいぐるみのこん。あきが成長するにつれて、こんは古くなり、とうとう腕がほころびてしまいます。その腕を直してもらうため、汽車に乗っておばあちゃんの住むさきゅうまちへ。わくわく、ハラハラ初めての二人旅。</p> <p>絵本の中には、作者のお茶目なあそびが散りばめられています。</p>		<p>同名の絵本が他にもありますが、こちらの絵本がおおすすめです。三匹目のこぶたは、カブ掘り、りんごもぎなど、知恵を働かせてオオカミを退治します。利口なこぶたにしてやられるオオカミの様子がおかしく痛快です。</p> <p>もとのお話は『イギリスとアイルランドの昔話』という本にあります。この本もどうぞお楽しみください。</p>
しょうぼうじどうしゃじぶた	福音館書店	すてきな三にんぐみ	偕成社
渡辺茂男 さく，山本忠敬 え		トミー・アンゲラー さく，いまえよしとも やく	
	<p>はたらくるまは、いつの時代も子ども達に人気です。</p> <p>消防自動車じぶたは、ジープを改良して作られたちびっこ消防車です。</p> <p>はしご車、高圧車、救急車にばかりにされていたじぶたに、ある日出動命令が。</p> <p>小回りのきくちびっこ消防車だからこその大活躍！</p> <p>子ども達の応援の声があがる一冊です。</p>		<p>黒マントに黒い帽子の盗賊三人組。おどしの道具は三つ、ラッパ銃にこしょう吹きつけ器、そして真っ赤なおおまさかり。盗んだ宝の使い道など考えたことのない三人組が、ある日みなしごの女の子を連れ帰ってしまいました。</p> <p>そこで話は一変し、ため込んだ財宝で城を買い、孤児達を育てるという意表をつくお話の展開がおもしろい。</p>
だいくとおにろく	福音館書店	だるまちゃんとてんぐちゃん	福音館書店
松居直 再話，赤羽末吉 画		加古里子 さく／え	
	<p>昔話によくある「名前あて」のお話。</p> <p>流れの急な川に橋をかけるよう頼まれた名高い大工の前に、目玉をよこせば橋をかけてやるという鬼が現れます。大工がいい加減な返事をしているうちに橋が完成し、逃げ出す大工に鬼は、自分の名前をあてたら許してやってもいいと言います。</p> <p>簡潔な語り口と、力強い鮮やかな絵が、子どもをひきつけます。</p>		<p>だるまちゃんは、お友達のてんぐちゃんの持っているものが次々と気になり欲しがります。うちわ、帽子、下駄、そして長い鼻。お父さんのだるまどんが用意し、たくさん並べてくれますが、どれも気に入りません。そこでだるまちゃんは…。</p> <p>子どもらしい言動が、ユーモアたっぷりに描かれています。</p>

4・5歳向け

ちいさいおうち	岩波書店	どろんこハリー	福音館書店
バージニア・リー・パートン 文／絵、石井桃子 訳		ジーン・ジオン ぶん、マーガレット・プロイ・グレアム え、わたなべしげお やく	
	<p>静かないなかに、ちいさいおうちがたっていました。リンゴの木や畑にかこまれて、たいへんしあわせでしたが、まわりに工場がたち、電車が通ってにぎやかな街になると、小さいおうちは、いなかの景色を夢見てさびしく思うのでした…。でも、最後には美しい自然の中で幸せになるという、自然の喜びを伝える絵本です。</p>		<p>お風呂に入るのが大嫌いな「くろいぶちのあるしろいいぬ」ハリー。お風呂の水の音を聞き逃げて出し、どろんこになるまで遊んで「しろいぶちのあるくろいいぬ」になってしまいます。家に帰ってもだれもハリーと分かってくれません。大奮闘のあげくお風呂に入れてもらって、ハリーと分かります。心からほっとする幸せな結末です。</p>
のろまなローラー	福音館書店	はじめてのおつかい	福音館書店
小出正吾 さく、山本忠敬 え		筒井頼子 さく、林明子 え	
	<p>ゆっくり道をなおしているローラーを「どいたりどいたり。あっはっはっ…」などと自動車が進み越していきませんが、坂の途中まで来ると、みんな止まってしまう。ゆっくり通り過ぎるローラーに「きみのおかげでみちもりっぱになるのですね。ほんとにありがとう。」と。認められたうれしさを感じさせる絵本です。</p>		<p>みいちゃんはママに頼まれて牛乳を買いに出かけます。自転車でベルを鳴らされてときどきしたり、坂道で転んでしまったり…。お店につきましたがだれもいません。「ぎゅうにゅうください」と言いましたが小さな声しか出ません。お店の人は、みいちゃんには気がつかないみたい…。こどもの心の動きを鮮やかに描いた絵本です。</p>
はたらきもの じょせつしゃけいていー	福音館書店	ふしぎなたけのこ	福音館書店
バージニア・リー・パートン ぶん／え、いしいももこ やく		松野正子 さく、瀬川康男 え	
	<p>雪にうまれたジェオポリスの町を、赤いトラクターのけいていーが除雪車をつけ、「ちゃつ！ちゃつ！ちゃつ！」とみちをつけていきます。おかげで消防車は火事を消し、救急車は病人を助け、飛行機は着陸することができました。力強く雪をかきのけ町を救うけいていーは、頼もしく、子ども達のあこがれです。</p>		<p>誕生日のご馳走のたけのこを掘りにいったら。脱いだ上着をかけたたけのこが「ぐぐぐ」とのびます。あわててとびつくと、どんだんのびて、とてつもなく高くなります。とうさんたちがやっと切ったそのたけのこは、いくつもの山々の木をおしわけて倒れ、それを伝わっていくと海に出たという昔話風の力強い絵本です。</p>
ももたろう	福音館書店	<div style="border: 2px solid pink; border-radius: 50%; padding: 20px; display: inline-block;"> <h3 style="margin: 0;">私たちからのメッセージ</h3> </div>	
まついただし ぶん、あかばすえきち え			
	<p>おばあさんが川で拾ったももからうまれたももたろう。おばあさんとおじいさんが用意してくれたおかゆや魚を食べて、どんどん大きくなり、立派に成長します。そんなある日、ももたろうは鬼が島の鬼が悪事をはたらいていると聞き、鬼退治にでかけることにします。力強い絵とともに、本当の昔話の面白さが味わえる1冊です。</p>	<p>4歳ごろは、自立心が芽生え、ことばに対する力がどんどん伸びるときです。ことばを耳で聞いてそのことばの世界を頭の中に思い描くことのできる力、いわゆる想像力や空想力といわれる力の基礎をしっかりと身につけることが大切になります。ですから、この時期は、ものがたりや昔ばなし絵本を中心に選ぶと良いでしょう。自立心や冒険心が十分に満たされ、満ち足りた幸せな気持ちで閉じることのできる、そんな絵本を選びましょう。</p>	



えほんのエピソード



『おおきなかぶ』

幼稚園で何回も読んでもらい、小学校でも読んでもらって、すごく印象に残っている本です。「うんとこしょ」「どろこいしょ」とみんなで1本をゆらしながら楽しく何回でもわくわくドキドキしながら読めた本だと思います。この本は、まさに“みんなが読む本”の代表だな、と思います。



『三びきのやぎのらがらとん』

子どものころ、木の橋を渡る時、ドキドキしました。トロールが居るような気がして、ぞう、としたい時にくり返し読んだ絵本です。

『ぐるんぱのようちえん』

自分が幼稚園に行っているころ、何回も何回もよみました。幼稚園が嫌いだ、私は“ぐるんぱのようちえん”にいきたいなあ…。クッキーが食べたいなあ…。おさらのボールにぐるんぱの鼻から入りたいなあ…。と絵本をひらくたび思っていました。しんぼりぐるんぱに自分を重ね合わせてもいた私は、幼稚園はひらいてないけれど、今、幼稚園が働いています。ある意味、人生を変えた一冊かもしれません。

『てぶくろ』

小さいてぶくろの中に7ひきも動物が入るのがおもしろかったです。



『どろんこハリー』

国語の教科書に出ていたような記憶があります。ものすごくおもしろかったです。大人になって親になつてから、絵本で再発見してうれしくなりました。

『ぐりとぐら』

娘は現在1児の母に息子は2児の父になっています。どの本が思い出に残っているかたずねると二人ともこの本をとりあげました。特にカステラがふんわりと出来上がったところでは、においまで伝わったように感じたそうです。森の動物達がわけてもらって食べているのが可愛かったことなど話していました。

『おおかみと七ひきのこやき』

おおかみが子ヤキたちの家を訪ねる時に、ガラガラ声だとは“れてしまうので、チョコの半分を食べ、お母さんヤキのやさしい声に変わる場面”で、いつもふしぎに思っていました。ある時チョコは口の中をきれいにする炭酸カルシウムが入っている事を知り、それがせきにもきくと知り、少し納得しました。

『ちいさいおうち』

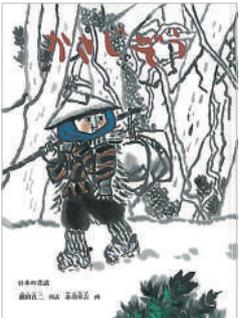
小さい頃、家にありました。大きい瓶の本でした。ちいさいおうちの周りが少しずつ変わっていき、おうちが古くなっていくのですが、最後には、ちいさいおうちは、また、もとのよつねのんびりした戸へ移り、もとすんでいたまごのまごの人が大切に生きていくというのが、じに残っています。家や物にもじがあり、大切にしていかなければと思いました。大人になつてから、子どものためにこの本を買いました。

『しょうぼうじどうしゃじふた』

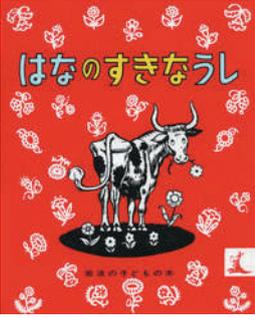
当年39年になる見子が、床に入る時必ず持ってきたのがこの本です。はじめは読み聞かせでしたが、毎晩の寝る前でしっかり内容を記憶し、せめては頁をめくりながら一人読みになりました。今では我が子にもせがまれていたりとか。この本がきっかけで、当時の車種、車名を全てしっかり判別し、玩具もミニカー(ばかり)、部屋の車庫は済車でした。



低学年向け（6歳～）

いやいやえん	福音館書店	エルマーのぼうけん	福音館書店
中川李枝子 さく, 大村百合子 え		ルース・スタイルス・ガネット さく, ルース・グリスマン・ガネット え, わたなべしげお やく	
	しげると保育園の仲間たちの楽しいお話が7話入っています。「山のぼり」では、みんなで果物の山へ遠足に行くことになりました。でも、先生との約束を守らなかったしげるとは、黒い山で子どもの鬼に出会います。しげるとがいたずらをしたり、わがまを言ったりするところに子ども達は共感することでしょう		エルマーは、どうぶつ島に捕らえられているりゅうを助けるために冒険の旅に出ます。持ち物は、チューインガム、棒つきキャンデー2ダース、歯ブラシ、リボン7本など。エルマーは、これらを使ってりゅうを無事救い出します。子どもの夢やあこがれを満足させてくれるエルマーのシリーズは、あと2冊あります。
王さまと九人のきょうだい (中国の民話)	福音館書店	おさるとぼうしうり	福音館書店
君島久子 訳, 赤羽末吉 絵		エズフィール・スロポドキーナ さく/え, まつおかきょうこ やく	
	顔も体つきもそっくりな九人の兄弟の一人「ちからもち」が宮殿の倒れた柱を直します。ところが王様はいつか自分を倒しに来るのではないかと心配になり、無理難題を吹っ掛けます。そこで今度は「くいしんぼう」が……。九人の兄弟が力を合わせて都の悪い王様の計略を破り、やつつてしまう中国の民話です。		帽子売りは、自分の頭の上に帽子をのせて売り歩いていました。ある日、大きな木の下でひと眠りして目を覚ますと、帽子がなくなっていました。帽子を盗んだのは、木の上にいるさるたちでした。さて、帽子売りはどんな方法で帽子を取り返したのでしょうか？真面目な帽子売りとおさるたちとのやりとりが愉快なお話です。
かさじぞう	福音館書店	くんちゃんの はじめてのがっこう	ペンギン社
瀬田貞二 再話, 赤羽末吉 画		ドロシー・マリノ さく, まさきりこ やく	
	貧乏なおじいさんは、大晦日に綱笠を売りに町へ出かけますが、売れませんでした。そこで雪をかぶっているお地蔵様に笠をかぶせて帰ると、次の朝、そり引きの声がして……。墨を用いた絵は、日本の雪見事に表現しています。また、リズムある掛け声も素朴な昔話にあっています。		「今日から学校へ行くんだ」と、張り切っていたくんちゃんでしたが、字を読んだり、書いたりできないので、自信をなくして外へ飛び出してしまいます。でも大丈夫、楽しい一日を過ごします。他に「くんちゃんのだりょこ」などシリーズがあります。どれもくんちゃんのがのびのびと成長していく様子が描かれています。
したきりすずめ	福音館書店	どろんここぶた	文化出版局
石井桃子 再話, 赤羽末吉 画		アーノルド・ローベル 作, 岸田衞子 訳	
	じいさの大事に育てているすずめが、洗濯のりを食べて、ばあさに舌を切られてしまいます。じいさは牛洗いや馬洗いに聞いて、すずめの宿にたどり着きます。宿では丁重にもてなされ、帰りに宝の入ったつづらをもらいます。次にはあさが宿に行くと……。昔話らしい繰り返しや、じいさとはあさの対比が面白い絵本です。		こぶたは、どろんこの中に沈んでいくのが大好きでした。ところが、ある日おばさんが大掃除をして、どろんこがなくなってしまう。怒ったこぶたは、家を出て、どろんこを探しに行きます。やっとみつけたどろんこはセメントだったから、さあ大変！こぶたの困った表情が印象的なユーモアのある絵本です。

低学年向け（6歳～）

はなのすきなうし	岩波書店	番ねずみのヤカちゃん	福音館書店
マンロー・リーフ おはなし, ロバート・ローソン え, 光吉夏弥 やく		リチャード・ウィルバー さく, 松岡享子 やく, 大社玲子 え	
	「フェルジナンド」って変わった名前ですね。だって、スペインの牛ですから。フェルジナンドは花のにおいをかくのが大好き。ひよんなことから、闘牛場に連れていかれたフェルジナンドは、ちゃんと、戦えるのでしょうか。文字や絵の雰囲気も優しく、字を読むようになった子が自分で読むのにぴったりの本です。		読み聞かせるには少し長いかもしれませんが、お母さんねずみの歌や、主人公のヤカちゃんねずみの大きな声など、声に出して読みたくなる楽しいお話です。人間に退治されそうだったねずみの一家が、その家に住むようになったわけが、繰り返しの表現を使いながら楽しく書かれています。
ピーターラビットのおはなし	福音館書店	ひとまねごとと きいろいぼうし	岩波書店
ビアトリクス・ポター さく/え, いしいももこ やく		H. A. レイ 文/絵, 光吉夏弥 訳	
	大人には、もうおなじみのピーターラビット。子どもたちもうさが大好きです。いろいろな姿の挿絵を見るだけでも楽しくなります。シリーズでいろいろなお話が出ていますから、ピーターが好きになった子は、この一冊をきっかけにつぎつぎと読み進めましょう。日本とは違う雰囲気の景色も素敵です。		おさるのジョージは、知りたがりやで、人まねが大好き。アフリカから黄色いぼうしのおじさんに連れて来られました。ジョージが巻き起こすいろいろなことが、愉快な挿絵とともに読者を楽しませてくれます。子どもたちは、この本を読みながら、かわいいジョージのことが大好きになるでしょう。テレビアニメにもなりました。
ふたりはともだち	文化出版局	ペレのあたらしいふく	福音館書店
アーノルド・ローベル 作, 三木卓 訳		エルサ・ベスコフ さく/え, おのでらゆりこ やく	
	がまがえるのがまくんとかえるくんは、とてもなかよし。二人でお話、なんだかとてもほのぼのしています。友だちのよさが分かるようになってきた低学年児童は、ますます、「友だちっていいなあ。」という気持ちになるでしょう。一冊に5つのお話が入っています。自分で一つずつ読むのもいいですね。		どのページにも大きな挿絵があり、文章は少なめで読みかきかせにぴったりの本です。ペレは、好きなこひつじの毛から服をつくりまします。服が出来あがるまでに、大人にいろいろなことをお願いするのですが、その代わりに、ペレもいろいろな仕事を引き受けます。最後のページの羊とペレは、とてもうれしそうです。
ものぐさトミー	岩波書店	私たちがからのメッセージ	
ペーン・デュボア 文/絵, 松岡享子 訳			
	主人公の名前は、トミー・ナマケンボ。電気仕掛けの家に住んでいます。そこでは、歯磨きも食事も、すべてが自動できてしまいます。ところが、ある日、大雨が降り大風が吹き、電柱が倒れてしまいました。もちろん自動機は、動きません。さて、ものぐさトミーは、どうなるのでしょうか。続きは読んでのお楽しみ！	自分で文字を読むことが出来るようになる年齢なので、絵本と読み物の橋渡しになるような本を集めました。一人で読めるようになった子のために、文字もあまり小さくなく、挿絵も多めです。 また、この頃の子どもは、身の回りの事物・自然とも話が出来るような感性を持っており、空想の世界に浸って楽しむことができる本も大好きです。言葉の繰り返しがあったり、話の展開がわかりやすかったりと、子どもが次の展開を期待しながら楽しく読めるものを選びました。	



第4次鳥取市子どもの読書活動推進計画

～広げよう、本から広がる世界・夢～

令和3年3月発行

監 修 鳥取市子どもの読書活動推進委員会

編集発行 鳥取市教育委員会事務局生涯学習・スポーツ課

〒680-8571

鳥取市幸町71番地

電 話 0857-30-8426

ファクシミリ 0857-20-3954